

## 謝 辞

僭越ではございますが、卒業生の保護者を代表いたしまして、お礼のご挨拶を申し上げます。本日は子供達の為に、このように盛大な卒業式を挙行頂きまして、誠にありがとうございます。学院長先生、理事長先生、並びに諸先生方に対し、保護者一同、厚く御礼申し上げます。

また、ご来賓の皆様におかれましては、お忙しい中、ご臨席を賜り、心温まる励ましと、お祝いの言葉を頂戴いたしましたして、本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。皆様から頂いた言葉は、卒業する子供達の胸に、深く刻まれたことと思います。

本日、晴れの日に、立派になった子供達の姿を見ることができ、保護者一同喜びで、今、目がしらが熱くなる思いです。思い起こせば三年前、ソメイヨシノの咲き誇る中、不安と期待を胸に、親子で一緒に作新の門をくぐりました。入学後、子供達は、担任の先生をはじめとした諸先生方の、日々の真剣なご指導のお陰で、学業だけでなく、部活動や様々な学校行事に打ち込むことができました。

保護者の私達は、毎日のお弁当作り、送り迎え、そして部活動の応援、学校行事への参加などで、一緒に一喜一憂し、三年間を共に過ごしてまいりました。子供達と保護者にとりまして、幼、小、中、高と四度目となる卒業の日を、無事迎えられることができ、感無量です。

三年間で、子供達は、それぞれの能力と個性を伸ばし、集団生活を通して、沢山の思い出や、かけがえのない友を得ることができました。

今年度、作新学院は創立百三十周年を迎え、記念すべき年となりました。子供達は、その長きにわたる伝統と、スポーツも勉学も、両方できる総合学院という恵まれた環境の中で、それぞれが様々な分野で日々努力し、その成果を存分に発揮してまいりました。

部活動では、硬式野球部の甲子園五年連続出場をはじめとし、三十四部、三百四名が全国大会への出場、弓道部、バドミントン部、ゲートボール部、少

林寺拳法部、軟式野球部では優勝をも成し遂げました。

学習成果においては、国際社会に貢献できる人間性豊かな人材の育成を目標として実施しているスーパー・サイエンス・ハイスクール活動も五年間の集大成の年となり、『科学の甲子園』である研究発表会において、素晴らしい研究成果を発表することができました。

社会貢献活動では、「オール作新」による被災地支援活動は今もなお継続され、アフリカ一万足プロジェクトによる国際社会への貢献活動も、目標を上まわる成果をあげることが出来ました。今や子供達の活動は、日本全国で活躍の場を広め、世界をも視野にいれた、グローバルなものとなっております。

校風である『一校一家』と、『自学自習』『誠実勤労』という教育方針を実践する為、身に付けた知性、技術、精神力を社会で活用することが「作新民」の使命であると教えていただきました。これからは、子供達が作新学院でつちかった「作新民」としての「人間力」を糧に、前向きに、ひたむきに、そして爽やかに、胸を張って前へ進んでくれることと信じております。子供達が、輝ける希望を胸に、それぞれの未来へと向かって歩み始めることができるのは、先生方の献身的なご尽力と、ご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

保護者としても、懇談会や面談で、先生方のお話を伺う度に、多感な子供達の心の動きをよく捉え、それをいつも全身で受け止めた上で、一人ひとりに対する、細やかな配慮をして頂いている事を感じることができました。今、高校を無事に卒業していく我が子の姿に、親として一つの責任を果たし終えたような安堵感と、大人になり、親元から巣立っていく寂しさで胸がいっぱいです。

百三十周年を記念し、四十八億キロの彼方にある直径一〇kmの小惑星に『作新学院』の名前が付けられました。小惑星は、宇宙の塵が、衝突、合体を繰り返しながら小石となり、岩となり、さらに発達、成長したものだと言われています。

子供達も宇宙に舞う塵の様に、まだまだ成長の過程にあります。今後それぞれが進もうとする道の途中で、何かに衝突し、時に思い悩み、立ち止まることがあるかもしれません。その様な時、小惑星『Sakushingakuin』という星に思

いを馳せながら、時には夜空を見上げ、作新学院で考え、学んだことを思いだして、自分で選んだ道をしっかりと歩んでいけば、きっと自分なりの輝く何かが見つけられ、そこから少しずつ、少しずつ、成長できるものと確信しております。そして将来、十年後、二十年後、三十年後、卒業生達がユニバーサルな視点で物事に取り組んでいった結果、様々な分野でノーベル賞を受賞するということも夢では無いと期待しております。

先生方、どうぞ今後とも子供達の成長を温かく見守って頂き、折に触れ、子供達にお叱りと、励ましを与えて頂けますよう、お願い申し上げます。

この学院に入学したからこそ、今の彼らがあるのだと思います。これからは、一人ひとりが、作新の風に吹かれる旗となつて、大きくはためくことでしょう。結びに、改めてお礼を言わせて下さい。

元先生、恵先生、松久先生、塩野谷先生、山岸先生、金田先生、諸先生方、そして学院関係者の皆様、三年間、本当にありがとうございました。

感謝の言葉は付きませんが、いつでも立ち寄れる心の拠り所として、作新学院が存在し、一五〇年、二〇〇年と、これから先も、ずっと輝き続けるようご記念申し上げます、また、学院長先生はじめ諸先生方の、ご健勝とご多幸をお祈りいたしました、お礼の言葉とさせていただきます。

平成二十八年三月一日

平成二十七年度 卒業生 保護者代表 伊藤 保和

作新学院長 船田 元 様